

オボロ万十ト云フ江戸ニハ製之コト甚ダ稀也。

〔時慶卿記〕慶長八年六月十七日、松木上膳鮎卅三、茶酒瓶口口遣候禮ニ、又此方へ薄皮饅二百被贈候。

〔菓子話船橋〕吉野饅頭。

皮は薄くとも厚くもなるなり、ほどよく平めになして、小麥のとり粉にてあつかひ、上餡を包み、又八重成餡胡麻餡等を包み、簣の上へとるなり。

〔續百一錄〕元文四年四月十三日、九日御近習御一統御獻上之御菓子并折臺廿八割御一方様之分壹匁六分三厘七毛五宛ニ而山科家御モヨホシ、

三十匁 大。まん。ぢう。貳百、二匁貳分五厘、金紅長水引九わ、三十二匁貳分五厘、杉重一重物下臺共代十三匁六分、

〔毛吹草〕山城 饅頭 大和 饅頭

〔雍州府志土產〕饅頭 古建仁寺、第二世龍山禪師入宋、于時中華人林和靖末裔林淨因執弟子禮斯人於中華製造饅頭、元順宗至正元年、龍山歸本朝日、林淨因相從來、在本朝改氏鹽瀨、始住南都製之、其形狀片團、是稱奈良饅頭、是本朝饅頭之始也、於中華始自諸葛孔明、曾鹽瀨淨因有數子、其內一人爲僧從龍山、則建仁寺中兩足院祖無等以倫是也、故到今鹽瀨一家悉爲兩足院之檀越、以倫弟某於北京造之、今烏丸鹽瀨之祖也、一說淨因晚年歸中華云、又一條虎屋饅頭祖三官亦中華投化人也、如今製之家所々有之、松屋、龜屋、二口屋、寶來屋等、互爭競造饅頭、外皮貴精白、內杏重甘美、凡饅頭并餅、納砂糖并赤小豆粉於其内、蒸而食之、其所包裹之物如杏之仁、故稱杏或作餅、此外羊羹月羹外郎餅、高麗仙袂類、亦此等家之製造也、

〔和漢三才圖會百造醜〕饅頭、餛飩、胡餅、十字見于東